

2014年7月15日(火) 期末テスト出題内容

全て選択式の解答です。

1. 言語の系統と類型:日本語・英語・中国語はどのような系統と類型に所属するか
(プリント p13)
2. 音節とは何か (テキスト p11)
3. モーラとは何か (テキスト p14)
4. 複合語アクセント規則(テキスト p22-23)
5. 複合・派生とは何か。例を挙げて考察する。(テキスト p36-41)
6. 「右側主要部の規則」とは何か。(テキスト p50-56)
7. 「上位語」と「下位語」とは何か。(テキスト p56-57)
8. 「他動性調和の法則」とは何か。(プリント p20)
9. 「主要部後置/右側主要部型言語」とはどのようなものか。(テキスト p65)
10. 文の構造・樹形図 (テキスト p66-68)
11. 「c 統御」という構造関係 (テキスト p69) パレートの法則 経験則とやや類似
12. 「格」(Case)(テキスト p72, プリント p39)
14. 「項構造」(テキスト 76-77)
13. 「意味役割」(プリント 39-42)
15. 「樹形図」(tree diagram)を描く。WH 移動の樹形図。(テキスト p81-84)
16. 「主題」「対照」の「ハ」及び「総記」「中立叙述」の「ガ」(テキスト 102-103)

3. 文分析の四つのレベル: 文法関係、格、意味役割、談話構造

1) Grammatical Relation ^{ぶんぽうかんけい} 文法関係 subject/ object ^{しゅご もくてきご} 主語/目的語

2) Case ^{かく} 格

主格 nominative, 対格 accusative, 与格 dative, 属格 genitive, etc.

3) Semantic Role (thematic-role; θ -role in Generative Grammar 生成文法)

3.1 ^{いみかく} 意味格 (θ 役割)

1. Agent ^{どうさしゅ} 動作主 the one who intentionally initiates the action expressed by the predicate. ^{意図} 意図を持って、ある行為を行う人

(1) a. John smashed the vase with a hammer.

ジョンは花瓶をハンマーで叩き割った。

b. The vase was smashed by John with a hammer.

花瓶はジョンによってハンマーで叩き割られた。

2. Theme(Patient) ^{たいしやう} 対象

the person or thing which exists or moves or displays change of a state.

存在するもの、移動するもの、変化するもの

(2) The dot is inside the circle.

点が円のなかにある。

(3) The circle contains the dot.

円は点を含んでいる。

(4) John put the dictionary on the bookshelf.

ジョンは辞書を本棚に置いた。

(5) The car rolled down the slope.

車 {が/は} 坂を転げ落ちていった。

(6) John gave the book to Mary.

ジョンはメアリーに本をあげた。

(7) Mary got the book from John.

メアリーはジョンから本をもらった。

(8) The prince turned into a frog.

王子様は蛙に変わってしまった。

(9) The magic wand turned the prince into a frog.

魔法の杖が王子様を蛙に変えてしまった。

(10) I broke the vase.

私は花瓶を壊してしまった。

3. Experiencer ^{けいけんしや} 経験者 the person who experiences some psychological state expressed by the predicate.

ある心理状態を経験する人 [-volitional] 非意図的

(11) a. John { unintentionally/* intentionally } heard Mary's words.

b. 太郎に花子の話し声が {偶然/*わざと} 聞こえた。

(12)	I	Action	vs	Stative	
		look at		see	
		看 kan		看見 kan jian	
		listen to		hear	
		聽 ting		聽見 ting jian	大廳 ting ホール

ラ
ウンジ

私は緑豊かな武蔵野に住んでいます。

(20) I put some chocolate in the frig.

私はチョコレートを少し冷蔵庫に入れた。

4). Exercise

Fill in the appropriate terms in the following blanks.

(23) [私 {*は/が} 水が飲みたい]気持ちは、彼にすぐに伝わり、ミネラルウォーターを買ってきてくれた。

	私が	水が	飲みたい
1. Grammatical Relation	1)	2) 目的語	願望・可能・知覚・存在 の意味を含む述語の目的語 Predicate
2. Case	3)	4)	
3. Semantic Role	5)	6)	
4. Informational Structure	New Information		

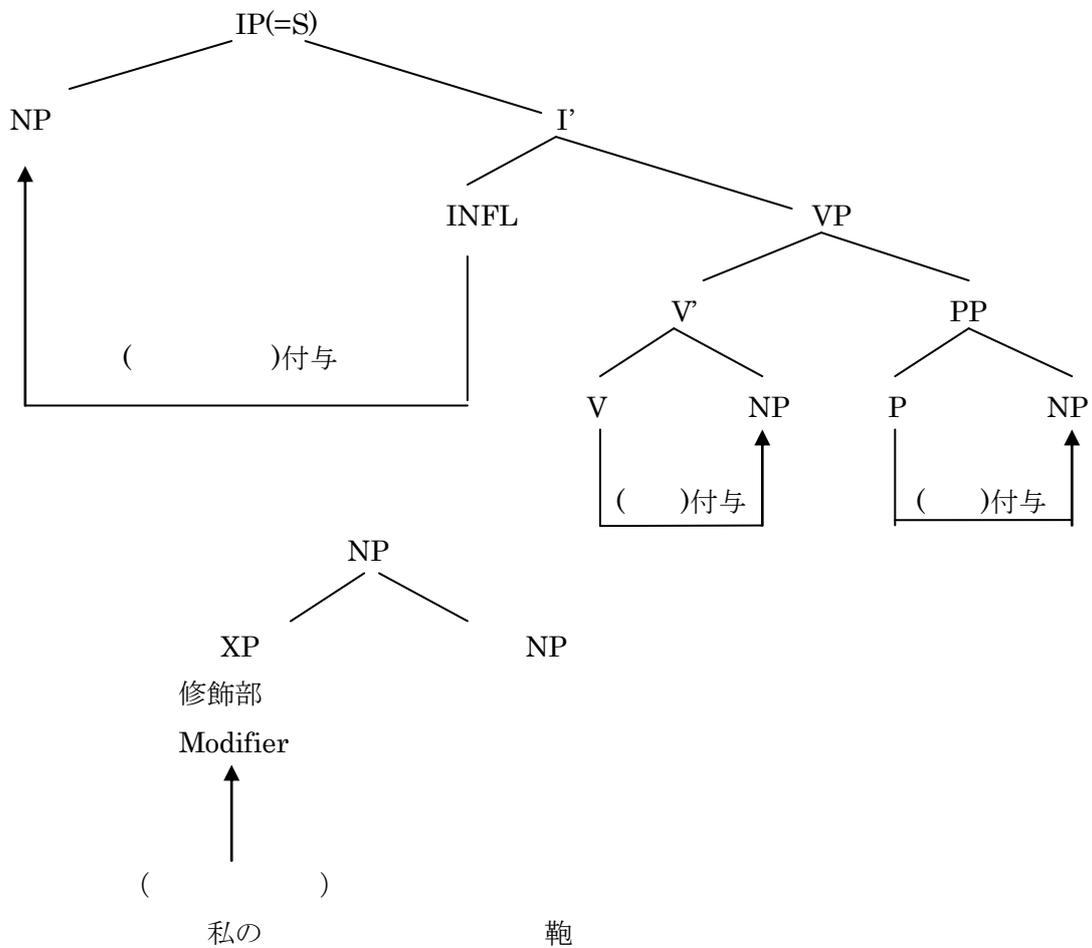
3.2 格と意味役割

1) 形態格(Morphological case)と「抽象格」(Abstract Case)

日本語の形態格(Morphological case)	抽象格 (Abstract Case)	格付与子 (Case Assigner)
	生成文法における概念	
主格・対格は、「格助詞脱落」(case drop)が起こる。	構造的に必須項(Obligatory Argument)	
	構造によって付与される	
1. 主格(Nominative) ()	1. 主格(Nominative) ()	
2. 対格(Accusative) ()	2. 対格(Accusative) ()	
3. 属格(Genitive) ()	3. 属格(Genitive) ()	
4. 与格(Dative) ()	4. 与格(Dative) ()	

5. 処格(Locative) ()	文にとってあってもなくてもよい 随意項(Optional Argument), 前置詞・後置 詞の語彙的特性によって付与される
6. 到達格(Goal) ()	
7. 奪格(Ablative)/ 起点格(Source) ()	
8. 方向格(Directional) ()	
9. 共格(Comitative) ()	
10. 道具格(Instrumental) ()	
11. 比較格(Comparative) ()	
5. 斜格(Oblique) ()	

2) 格付与子(Case Assigner) 英語の場合



3) INFL の内部構造 : X'理論に基づく文 IP の主要部

INFL : [Tense, Agreement]
 時制要素、一致要素

いずれも機能範疇で、実際には主語名詞や動詞の形態に反映される。

4) 音形をもたない代名詞 PRO(big PRO) と pro(small pro)

	生起する統語的位置	定形節(finite clause)の主語の省略
PRO	英語 不定詞(infinitive)句の主語の位置。音形をもつことができない。 John tried (*John) to lock the door.	英語では不可能であるが、不定詞句の主語は音形をもってはならない。
pro	日本語 定形節の主語・目的語などさまざまな位置に自由に生起する。 a. ねえ、pro1 pro2 見えた？ b. あ、pro1 pro2 見えた。	日本語では可能。 先行詞は、前の文脈に求めることができる。 「談話指向」(discourse Oriented)のゼロ代名詞

第四章 統語論 機能的構文論

文を超えた「談話」(Discourse)と「情報構造」(Informational Structure)

1 「は」と「が」について

1. 1 「主語」、「主格」と「主題」

(1)

主語	文法関係(grammatical relation) : 述語に対して必須名詞句がとる機能。主語、目的語。
主格	形態的格(morphological case) : 名詞句が述語との関係で起こす形態変化。主格、対格、与格。
主題	談話 (discourse) : 「結束した文の集まり」レベルで、話し手が聞き手も了解済みと認定した情報(「旧情報」又は「既知」)を担い、文や文群の叙述が何について述べていか、の「何」にあたるもの。

(2) a. この問題については、私 (に) は、胸のうちに、もう、考えがあります。

b. (關於) 這個 問題, 我 心裡 已經 有 主意。

guanyu zhe-ge wenti wo xin-li yijing you zhuyi
 ~について この 問題 私 心の中 すでに ある 考え

(3)

分析レベル	この問題について ては	私(に)は	胸のうちに	考えが	あります。
文法関係レベル	——	主語	——	目的語	述語
形態的格レベル	について	(に)与格	(に)与格	(が)主格	述語
談話レベル	主題 1 (Topic) 旧情報	主題 2 旧情報	評言(Comment) 新情報		

(4)

分析レベル	这个问题	我	心里	有	主意。
文法関係レベル	——	主語	——	述語	目的語
形態的格レベル	——	——	——	述語	——
談話レベル	主題 1 旧情報	主題 2 旧情報	評言 新情報		

1. 2 疑問詞と焦点標識の「が」

(5) 誤用例 (穂積、1990)

- a. 科学者の誰はあの時一切の困難を克服する勇気を持てたか…。
- b. 先生の家へ誰は行くか決まっていますが、いつが一番いいですか。
- c. 重病の父の気持ちを私達の誰は理解できたのでしょうか。

☆誤りを指摘すると→ ()

(6) 「は」と「が」

a.

焦点 (新情報)	旧情報
<u>誰</u> が	来るのですか。
木村さん <u>が</u>	来るのです。

b.

主題 (旧情報)	評言 (新情報)
これは	誰の本ですか。
セーターは	いくらですか。

(7) 中国語の焦点標識

- a. (是) 誰 要 來 呢?
 Shi shei yao lai ne
 焦点標識 誰 助動詞 来る 疑問終助詞

(誰が来るのですか。)

- b. (是) 木村先生 要 來。

(木村さんが来るのです。)

- c. 這封信由我來寫。

(この手紙は、僕が書くのだ。)

1. 3 「象は鼻が長い」型主題文

(8) 誤用例 (穂積、同上) 自然な日本語に直してみよう。

- a. あの男の度胸は全くない。 → ()
 b. 張さんの胃は弱いのに、どうして毎日タバコを吸うのだろう。
 → ()

- c. 彼のお世辞は大變上手だ。

→ ()

(9) 話題(主題,topic) ≠ 主語(subject)

話題	評言	
	主語	述語
象は	鼻が	長い。
京都は	秋が	いい。

(10) 中国語の「象は鼻が長い」型主題文

- a. 大象, 鼻子 長。
 daxiang bizi chang
 象 鼻 長い
- b. 京都, 秋天 最 美。
 jingdu qiutian zui mei
 京都 秋 もっとも 美しい

1. 4 中国語の語順と新旧情報

(11) 誤用例 (穂積、同上)

村の西にダムがある。ダムの土手が雄大で威厳をみせている。

(12) 中国語の存在文:

a. 「有」存在文 (主語倒置文): 文全体が新情報。

桌子 上 有 一本 書。

Zhuozi shang you yi-ben shu

机 うえ ある 一冊 本

机の上に本が一冊ある。

There is a book on the desk.

b. 「在」存在文: 旧情報+新情報

妳的 書 在 桌子 上。

Ni-de shu zai zhuozi shang

君の本 ある 机 うえ

君の本は、机の上にある。

Your book is on the table.

☆ definiteness 定性 (名詞に関わる文法範疇の一つ) の形式

日本語 主題標識 (旧情報) 「は」と 新情報を担う「が」

英語 定冠詞 the (旧情報) と 新情報を担う不定冠詞 a

中国語[「在」存在文: 旧情報+新情報]と [「有」存在文: 文全体が新情報]

(13) 中国語の出現・消滅文

a. 出現文: 文全体が新情報。主語が倒置。

昨天 來 了 三位 客人。

Zuotian lai le san-wei keren

昨日 来る 完了相 三人 お客さん

昨日お客さんが三人来た。

b. 判断文: 旧情報+新情報

那 三位 客人 昨天 來 了。

Na san-wei keren zuotian lai le

あの 三人 お客さん 昨日 来る 完了相

あの三人のお客さんは昨日来た。

(14) 気象文

「降雨、落石、出水」の漢語

a. 主語倒置: 文全体が新情報。

下 雨 了。

Xia yu le

降る 雨 完了相

雨が降ってきた。

b. 判断文：旧情報＋新情報

雨 停 了。

Yu ting le

雨 止む 完了相

雨は止んだ。

1. 5 対比の「は」

(15)誤用例（穂積、同上）

a.先生の質問の意味がわかりますが、日本語で説明ができません。

b. それらの書道作品は数量が少ないが、……変化に富んだ書体が多かった。

(16) 水果 便宜, 但 蔬菜 貴。

Shuiguo pienyi dan shucai gui

果物 安い しかい 野菜 高い

果物は安いが、野菜は高い。

【参考文献】

穂積 晃子 1990 顧海根・李強訳『中国人学日語常見病句分析 100 例』、笛藤出版社、台北。

望月圭子 1999 「‘は’ と ‘が’：中国語を母語とする学習者への教授法」、『東京外国語大学独立百周年論文集』197－221、東京外国語大学。